

Forestry and forestry

鹿児島県立楠隼高等学校 きもつきっず

肝付町とは？

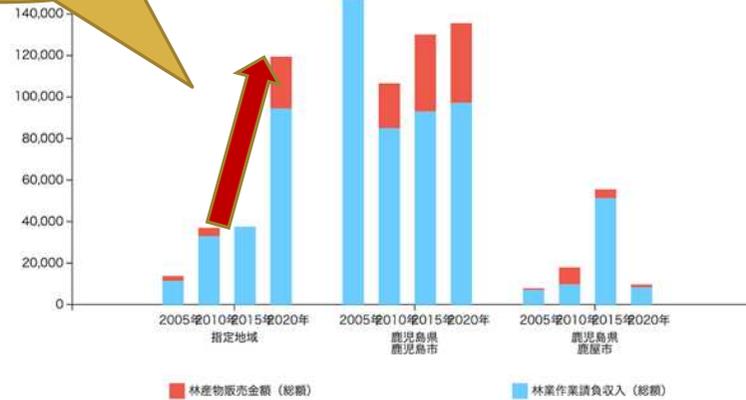
- 大隅半島の東側に位置し、太平洋・志布志湾に面している。
- 人口・・・14,352人（令和4年8月末現在）
- 土地の8割を森林が占める
- 面積・・・308.1km²



林業総収入（総額）

指定地域：鹿児島県肝付町

五年間でおおよそ3倍



【出典】
農林水産省「農林業センサス」再編加工

【注記】

林業総収入＝林産物販売金額＋林業作業請負収入。

林産物販売金額＝ Σ （各階層中位数×各階層経営体）。林業作業請負収入＝ Σ （各階層中位数×各階層経営体）。

最上位層の中位数は7億円として推計。林業作業請負収入とは、農林業センサスにおける受託料金収入を指す。

林業作業を請け負ったことにより得た収入をいい、諸経費、人件費を差し引く前の金額をいう。

各階層中位数については、階層が2015年以前と2020年で異なっているため、中位数に違いがある。

・2015年以前の階層：50万円未満、50～100万円未満、100～200万円未満、200～300万円未満、300～500万円未満、500～700万円未満、700～1,000万円未満、1,000～1,500万円未満、1,500～2,000万円未満、2,000～3,000万円未満、3,000～5,000万円未満、5,000万～1億円未満、1～3億円未満、3～5億円未満、5億円以上



肝付町がどのように
林業を発展させたか
を知ることによって多くの
自治体にも応用でき
るのではないだろうか

肝付町がどのように林業を発展させたかを知ること
で多くの自治体にも応用できるのではないだろうか

- 日本の国土の75%を占める山林、それを生かした産業を発展・成長させるのに必要な要素を見つけて出すことで地理的・歴史的・政治的条件にとらわれない地方活発化の鍵になるのではないか
- 目立つような特色を持っていなくても活性化するためへの兆しが見えてくるのではないだろうか

Question



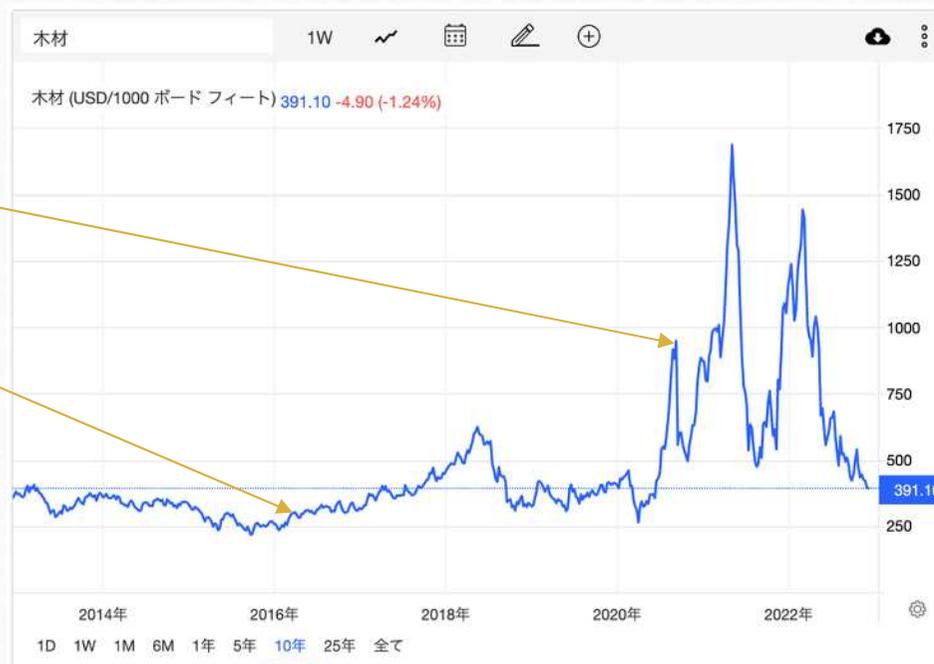
どうして肝付町の林業総収入は急激に増えたのだろうか

Guess



「wood shock」の影響では
ないだろうか

木材価格の推移



木材 (USD/1000
ボードフィート)
948.00+68.10
(+7.74%)

木材(USD/1000
ボードフィート)
323.00 -9.00
(-2.71%)

https://jp-tradingeconomics-com.translate.goog/commodity/lumber?_x_tr_sl=en&_x_tr_tl=ja&_x_tr_hl=ja&_x_tr_pto=wapp

Answers



「wood shock」以前に起こった価格変動が原因だと考える

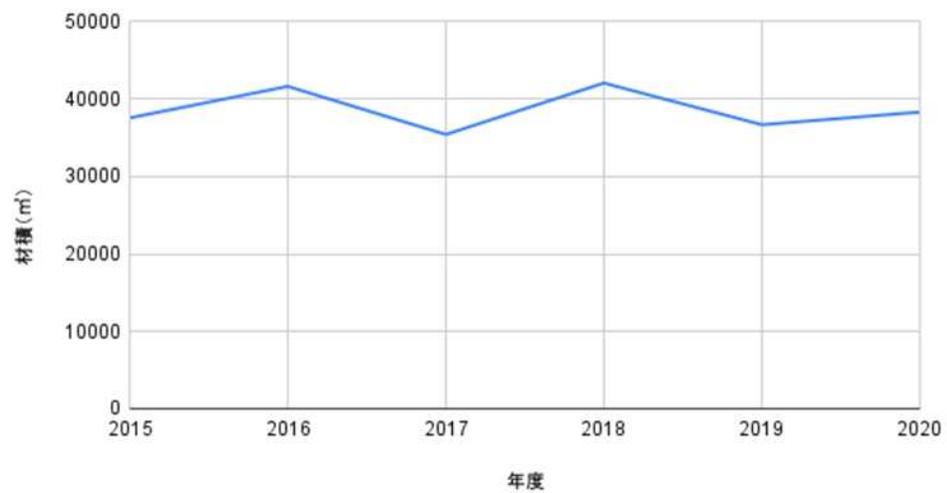
どの分野が成長したのだろうか

単に林業と言ってもそこには多くの分野があることが考えられる。



特に成長が著しい分野について調べ、成長につながるような取り組みや支援などの特徴を考える

肝付町 素材生産量



素材生産量：1年間に販売のために作られた素材の量の合計

木材の素材生産量は五年間で大きく変化していない。つまり木材は林業総収入にあまり影響していない

肝付町の活動

- I. 林業就労改善推進事業
- II. 民有林間伐等補助金・間伐用路網整備事業 補助金・高性能林業機械等整備事業費補助金
- III. みんなの森づくり 県民税関係事業
- IV. 未整備森林の整備推進
- V. 肝付町北方地域森林整備推進協定・肝付町岸良地域森林整備推進協定の
- VI. かごしま竹の郷 創生事業
- VII. 特用林産物の産地づくり推進事業
- VIII. 再生可能エネルギー導入プロジェクトにおける木質バイオマスプロジェクト

今回は特色の強い
VI・VII・VIII
について

VI：かごしま竹の郷 創生事業

- 豊富な竹林資源を生かし早掘りたけのこの生産体制の強化や竹林の有効活用の促進
- 鹿児島が日本一を誇る現在放置状態にある竹林面積を生かし市町村においての活発化の小爆材となるようなことを目的としてつくられた
- 大きくたけのこ生産の体制づくりと竹材の生産有効活用の促進に分けられる

VII：特用林産物の産地づくり推進事業

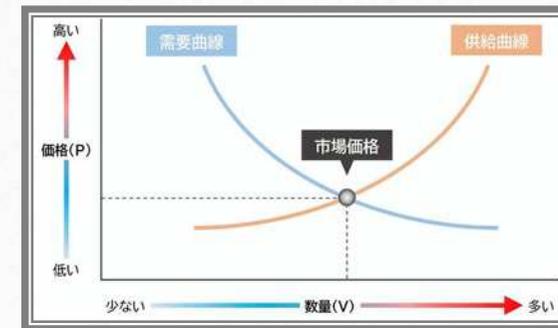
- 地域の特色を活かした特用林産物の生産振興と産地づくりを推進する
- 町の振興作物に指定されているタケノコ・枝物の振興について、各種機関と連携し研修の案内や情報誌等による技術提供を実施しながら、生産者の育成・確保・新規参入を図ります。（「第2次肝付町総合振興計画後期基本計画」より）
- 具体的活動は分からなかった

VIII：再生可能エネルギー導入プロジェクトにおける 木質バイオマスプロジェクト

- 肝付町では「エネルギーを地産地消するまちに向けて」と題し再生可能エネルギーの活用を進めているその活動の一環でバイオマス発電を取り入れている
- 中でも「木質バイオマスプロジェクト」は3つの重要プロジェクトの一つとされている
- 宿泊施設でもある「高山温泉ドーム」への導入や農業用ハウスでの熱利用が計画されている

まとめ①

- 今回着目したいのは「Ⅷ」これ以外の政策は供給量を増やすためのものであるが、これに関しては需要を見出している。
- 行政の出す助成金や政策の多くは「供給」をするためのものであり、それでは供給量だけ増えてしまうため価格が落ちてしまうこれはアダム＝スミスの言葉「神の見えざる手」から考えられる
- よって今後行政が行うべきなのは需要を増やすための政策だと思う。



具体的な提案

木質ペレット等を用いた家庭用小型木質バイオマス発電の普及
～薪・木質ペレットボイラーやヒーター～

政策内容

- 薪やペレットが使用できるヒーターやストーブの費用支援
→緊急時でも使えることから災害に強い街づくりにもつながる
→カーボンニュートラルに基づいているのでSDGsの取り組みにもなる
- 薪材やペレットのオリジナルブランド化
→全国的なストーブ需要の高まりでこれらの需要が増え、需要を増やす政策にすることができる

なぜ薪・木質ペレットストーブか？

- ・汎用性が広い
(例) 給湯、暖房、非常時の熱源など
- ・様々な資源を活用できる
(例) ペレット、薪、竹、剪定枝、瓦礫



出典：エコライフ石川

自治体との連携

- 設置費用は10万～20万程度かかる。また場合によっては追加費用が必要となる。
- これでは導入に対してのハードルが高いため自治体に支援してもらう
- 具体的には鹿児島県や肝付町などの関係団体からの補助金制度の設置の協力

例：熊本県南関町

家庭用再生可能エネルギー導入促進助成金交付事業

まとめ②

この政策を通して肝付町の林業を含めた生産額を増やすとともに、災害に強い街づくり、SDGsとしての取り組みなど様々な事業と組み合わせることで行いやすいと考える。

また林業などで肝付町のオリジナルブランド化を通して全国へ展開し、全国から消費される取り組みとして行える。

これにより需要を増やす政策として行うことができる。

またこの取り組みを行っている自治体はないため政策として全国への展開も可能である。